

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.8.24-30

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

13:8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです。

13:9 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな。」という戒め、またほかにどんな戒めがあっても、それらは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」ということばの中に要約されているからです。

13:10 愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。

13:11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。

13:12 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。

13:13 遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。

13:14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。

「何の借りもあってはいけません。」というのは、義務を残しておいてはならないということです。信仰ゆえに、または兄弟姉妹だからといって、義務を大目に見てもらいたがる人がいたからです。甘えを当たり前と思わないようにしましょう。

義務を残してはならないのですが、「互いに愛し合うことについては別です。」とパウロは言います。愛は自ら進んで義務を負おうとします。その点にお

いては、義務を感じることは良いのです。

愛は全ての律法を全うします。クリスチャンは”〇〇しなければならない”という発想ではなく、”〇〇をしてあげたい”という思いで行動するのです。

そのような生き方はイエス様の再臨があっても恐れることのない安心を与えます。イエス様の再臨、すなわち「眠りからさめるべき時刻」を覚えながら、イエス様の愛の原理で生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14:1 あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。
14:2 何でも食べてよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜よりほかには食べません。
14:3 食べる人は食べない人を侮ってはいけなし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。神がその人を受け入れてくださったからです。
14:4 あなたはいったいだれなので、他人のしもべをさばくのですか。しもべが立つのも倒れるのも、その主人の心次第です。このしもべは立つのです。なぜなら、主には、彼を立たせることができるからです。
14:5 ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。
14:6 日を守る人は、主のために守っています。食べる人は、主のために食べています。なぜなら、神に感謝しているからです。食べない人も、主のために食べないのであって、神に感謝しているのです。
14:7 私たちの中でだれひとりとして、自分のために生きている者はなく、また自分のために死ぬ者もありません。
14:8 もし生きるなら、主のために生き、もし死ぬなら、主のために死ぬのです。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。
14:9 キリストは、死んだ人にとっても、生きている人にとっても、その主となるために、死んで、また生きられたのです。
14:10 それなのに、なぜ、あなたは自分の兄

弟をさばくのですか。また、自分の兄弟を侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。

14:11 次のように書かれているからです。「主は言われる。わたしは生きている。すべてのひざは、わたしの前にひざまずき、すべての舌は、神をほめたたえる。」

14:12 こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります。

「信仰の弱い人」とは、ここでは「野菜よりほかには食べ」ない人であって、すなわち自由のない人です。何かの規定を堅守する人は意志の強い人のようですが、もしもそれを律法的に守っているのなら、実は規定に縛られている「弱い」という解釈です。

しかしそのような人は「弱い」と非難されるべきかということ、そうではありません。「その意見を裁いてはいけません。」とははっきりと書かれています。

信仰のあり方や、その人の生き方やについて批判することはならないのです。聖書に罪と定められていないことで、人を批判することは差し控えましょう。また同じように、これは主のためと信じるなら、また主に許されていると信じるなら、人の批判に左右されずに、主に聞いて行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14:13 ですから、私たちは、もはや互いにはさばき合うことのないようにしましょう。いや、それ以上に、兄弟にとって妨げになるもの、つまずきになるものを置かないように決心しなさい。

14:14 主イエスにあって、私が知り、また確信していることは、それ自体で汚れているものは何一つないということです。ただ、これは汚れていると認める人にとっては、それは汚れたものなのです。

14:15 もし、食べ物の中で、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、あなたはもはや愛によって行動しているものではありません。キリストが代わりに死んでくださったほどの人を、あなたの食べ物の中で、滅ぼさないでください。

14:16 ですから、あなたがたが良いとしている事がらによって、そしられないようにしなさい。

14:17 なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。

14:18 このようにキリストに仕える人は、神に喜ばれ、また人々にも認められるのです。

14:19 そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。

14:20 食べ物の中で神のみわざを破壊してはいけません。すべての物はきよいのです。しかし、それを食べて人につまずきを与えるような人のばあいは、悪いのです。

14:21 肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは

良いことなのです。

14:22 あなたの持っている信仰は、神の御前でそれを自分の信仰として保ちなさい。自分が、良いと認めていることによって、さばかれない人は幸福です。

14:23 しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。

人は主の御心に従って歩むべきで、礼拝し教会を建て上げ、兄弟姉妹を愛し、救いを伝え、証しを立てて生きるべきです。しかし食べ物など本質的でないことでは、自由が与えられています。

本質でないことで、人を批判するときは、その多くが、人間的な基準で測っているものです。しかし本当の基準は神様にあります。神様に聞いて、従って歩んでいるなら、周囲がそれを批判することはできません。

それでも自由だからといって、人を害するようなことがあってはなりません。「つまずき」にならないように、「そしられないように」すべきです。また当然「お互いの霊的成長に役立つこととを追い求め」るべきです。

大切なのは人間的な基準ではなく、愛なのです。そしてその愛を与え、教えてくださるのは神様です。ですから神様への「信仰」が必要条件であり、「信仰から出ていないことは」的外れとなり、それゆえに「みな罪(＝的外れ)」なのです。

自分の基準ではなく、主に聞いて判断しましょう。また行いましょう。生き方としましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



15:1 私たち力のある者は、力のない人たちの弱さにならねばなりません。自分を喜ばせるべきではありません。

15:2 私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。

15:3 キリストでさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかったのです。むしろ、「あなたをそしめる人々のそしりは、わたしの上にもふりかかった。」と書いてあるとおりです。

15:4 昔書かれたものは、すべて私たちに教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。

15:5 どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようになさいますように。

15:6 それは、あなたがたが、心をついにし、声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父なる神をほめたたえるためです。

15:7 こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。

15:8 私は言います。キリストは、神の真理を現わすために、割礼のある者のしもべとされました。それは先祖たちに与えられた約束を保証するためであり、

15:9 また異邦人も、あわれみのゆえに、神をあがめるようになるためです。こう書かれています。『それゆえ、私は異邦人の中で、あなたをほめたたえ、あなたの御名を

ほめ歌おう。』

15:10 また、こうも言われています。「異邦人よ。主の民とともに喜べ。」

15:11 さらにまた、「すべての異邦人よ。主をほめよ。もろもろの国民よ。主をたたえよ。」

15:12 さらにまた、イザヤがこう言っています。「エッサイの根が起る。異邦人を治めるために立ち上がる方である。異邦人はこの方に望みをかける。」

15:13 どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。

イエス様は弱者のために地上に来られ、仕えてくださいました。十字架が必要なのは罪と死に縛られた弱者のためです。もちろんそれは全人類のためです。しかし私たちは救われてしまうと、まるで自分が弱くなかったかのように、弱い人たちのことを忘れてしまいがちです。

イエス様ご自身が、「ご自分を喜ばせることをなさらなかった」のですから、私たちもまたそれに倣って、自分よりも他の人を特に弱い人のことを考えたいものです。それは大変なことのように感じるかもしれませんが、自分を必要としている人の役に立つことは嬉しいことです。また主の喜ばれることをするのは、自分も喜びが湧いてくるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:14 私の兄弟たちよ。あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています。

15:15 ただ私が所々、かなり大胆に書いたのは、あなたがたにもう一度思い起こしてもらうためでした。

15:16 それも私が、異邦人のためにキリスト・イエスの仕え人となるために、神から恵みをいただいているからです。私は神の福音をもって、祭司の務めを果たしています。それは異邦人を、聖霊によって聖なるものとされた、神に受け入れられる供え物とするためです。

15:17 それで、神に仕えることに関して、私はキリスト・イエスにあって誇りを持っているのです。

15:18 私は、キリストが異邦人を従順にならせるため、この私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かを話そうなどとはしません。キリストは、ことばと行ないにより、

15:19 また、しるしと不思議をなす力により、さらにまた、御霊の力によって、それを成し遂げてくださいました。その結果、私はエルサレムから始めて、ずっと回ってイルリコに至るまで、キリストの福音をくまなく伝えました。

15:20 このように、私は、他人の土台の上に建てないように、キリストの御名がまだ語られていない所に福音を宣べ伝えることを切に求めたのです。

15:21 それは、こう書いてあるとおりです。「彼のことを伝えられなかった人々が見るよ

うになり、聞いたことのなかった人々が悟るようになる。」

パウロはローマの教会のクリスチャンたちと、自分自身の使命を分かち合うことによって、彼らを主の働きへと、励まそうとしているようです。それはパウロの確信、「あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができる」という思いから来ています。人を励ますときには、神様から与えられた将来像が力になります。ビジョンによって励まし合いましょう。

パウロ自身のビジョンも、主から与えられたものであり、それゆえに彼は確信を持って進んでいきました。またそれは「キリスト・イエスにあっての「誇り」でもありました。

私たちも主イエスに従うことこそが誇りです。この世の基準で勝ち組のように見られても、主に従っていなければ、その人は神の目から見ればみじめなものであり、そのみじめさはやがて現実になって現れてきます。

本日の誇りを手に入れましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:22 そういうわけで、私は、あなたがたのところに行くのを幾度も妨げられましたが、15:23 今は、もうこの地方には私の働くべき所がなくなりましたし、また、イスパニヤに行くばあいは、あなたがたのところに立ち寄ることを多年希望していましたので、

15:24 ・・・というのは、途中あなたがたに会い、まず、しばらくの間あなたがたとともにいて心を満たされてから、あなたがたに送られ、そこへ行きたいと望んでいるからです。・・・

15:25 ですが、今は、聖徒たちに奉仕するためにエルサレムへ行こうとしています。

15:26 それは、マケドニヤとアカヤでは、喜んでエルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために贖金することにしたからです。

15:27 彼らは確かに喜んでそれをしたのですが、同時にまた、その人々に対してはその義務があるのです。異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたのですから、物質的な物をもって彼らに奉仕すべきです。

15:28 それで、私はこのことを済ませ、彼らにこの実を確かに渡してから、あなたがたのところを通過してイスパニヤに行くことにします。

15:29 あなたがたのところに行くときは、キリストの満ちあふれる祝福をもって行くことと信じています。

15:30 兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によって切にお願いします。私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください。

15:31 私がユダヤにいる不信仰な人々から救

い出され、またエルサレムに対する私の奉仕が聖徒たちに受け入れられるものとなりますように。

15:32 その結果として、神のみこころにより、喜びをもってあなたがたのところへ行き、あなたがたの中で、ともにいこいを得ることができすように。

15:33 どうか、平和の神が、あなたがたすべてとともにいてくださいますように。アーメン。

パウロはイスパニアすなわちスペインへの伝道をするために、ローマに立ち寄りたいたと願っています。それはローマで「心を満たされ」たいと思うからです。あなたによって心が満たされたい…などと言ってもらえるとしたら、何と言う幸いでしょうか。それも神の働きならば、より感謝です。

しかしパウロは経済的な支援のためにエルサレムに行こうとしています。このようにローマの人々にも祈りをお願いして、彼らを働きの同労者になってもらおうとしています。それはクリスチャンにとって祝福であり、誇りでもあります。ローマのクリスチャンたちはそれに答えたようです。

クリスチャンでも神の国の価値観が分らない人は、負担をかけたなら申し訳ないとか、負担をかけられたくないなどと遠慮するかもしれません。しかしそれは違います。主のために頼まれることは、同労者として認められていることであり、祝福のチャンスであり、誇りです。頼まれないことは逆に、認められていないことであり、さびしいことなのです。

頼まれる人になりましょう。そして主と人のために役立つことを喜びとし、がんばってみましょう。そして主の助けと幸いを経験しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16:1 ケンクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します。

16:2 どうぞ、聖徒にふさわしいしかたで、主にあってこの人を歓迎し、あなたがたの助けを必要とすることは、どんなことでも助けてあげてください。この人は、多くの人を助け、また私自身をも助けてくれた人です。

16:3 キリスト・イエスにあって私の同労者であるプリスカとアクラによく伝えてください。

16:4 この人たちは、自分のいのちの危険を冒して私のいのちを守ってくれたのです。この人たちには、私だけでなく、異邦人のすべての教会も感謝しています。

16:5 またその家の教会によく伝えてください。私の愛するエパネトによく。この人はアジヤでキリストを信じた最初の人です。

16:6 あなたがたのために非常に労苦したマリヤによく。

16:7 私の同国人で私といっしょに投獄されたことのある、アンドロニコとユニアスにもよろしく。この人々は使徒たちの間によく知られている人々で、また私より先にキリストにあらわれた者となりました。

16:8 主にあって私の愛するアムプリアトによく。

16:9 キリストにあって私たちの同労者であるウルパノと、私の愛するスタキスとによく。

16:10 キリストにあって練達したアペレによく。アリストプロの家の人たちによく。

16:11 私の同国人ヘロデオンによろしく。ナルキソの家の主にある人たちによろしく。

16:12 主にあって労している、ツルパナとツルポサによろしく。主にあって非常に労苦した愛するペルシスによろしく。

16:13 主にあって選ばれた人ルポスによろしく。また彼と私との母によろしく。

16:14 アスクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマスおよびその人たちといっしょにいる兄弟たちによろしく。

16:15 フィロロゴとユリヤ、ネレオとその姉妹、オルンバおよびその人たちといっしょにいるすべての聖徒たちによろしく。

16:16 あなたがたは聖なる口づけをもって互いのあいさつをかわしなさい。キリストの教会はみな、あなたがたによろしくとっています。

女性、異邦人、奴隷など様々な人々がここに記されています。教会とは主にあってひとつであり、分け隔てのないところです。自分自身が属している教会も、またクリスチャングループでも、誰もが隔てを感じることはないように、配慮し交わっていきましょう。

それは単なるお付き合いではなく、主のための同労者です。パウロはこれらの人々の主にある労苦を賞賛しながら、これを読む人々に励ましを与えたのでしょう。私たちも互いのよきわざを感謝し合って、良き模範にしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

